

調査が望まれる。尚採集した卵は全採集地のものとも羽化に成功したことと、羽化した早の内約10%程度の個体はB型で残りはAB型であったことも報告しておく。最後にこの報文をまとめるにあたり、資料の提供や調査に当ってご協力いただいた高島明氏と播磨蝶友会の八木弘、川崎悟良、尾崎勇、苦木隆幸、入江照夫、広畑政己、岩村巖、近藤伸一、各氏に心よりお礼を申しあげる。

参考文献

- (1) 松岡嘉之、三島寿雄：大山の蝶
- (2) 高田忠彦、井手敏晴：兵庫県産蝶類調査報告
〔1〕シジミチョウ科その1
- (3) 佐々木薫：宍粟郡一宮町にヒサマツ
ミドリシジミを求めて
ひろおびNo-5

KAORU SASAKI

〒678 兵庫県相生市

ヒメアカタテハの移動調査についてお願い

近 藤 伸 一

ヒメアカタテハの移動調査は、千葉県柏市の松井安俊、松井英子両氏が、一昨年より実施されていますが、まだ標式虫は採集されていません。この調査は多人数で実施しなければ不可能と思い、私も本年マーキングした成虫を放す計画をしています。採集された方はぜひ一報をお願い致します。(標式は左後翅裏面に×印、右後翅裏面は番号)

なお松井氏からの連絡によると、両氏が現在までに放された場所と標式は次の通りで、採集に出かけられた時には、ヒメアカタテハにも注意を払って下さるようお願い致します。

石垣島	I 001～I 030	1983.4.23～24(左後翅裏面)
〃	I 041～I 105	1983.5. 9～11(右後翅裏面)
千葉県柏市	(25頭)	1982.4.20～5.12(〃)
〃	001～ 200	1982.6. 4～18(〃)
〃	401～ 432	1982.9. 1～7 (〃)
〃	501～ 536	1982.10.14～11.3((〃)

Shinichi Kondo 〒674 神戸市

南光町船越でアサギマダラの越冬幼虫を確認

広 畑 政 己

1983年1月3日に船越にて本種の越冬幼虫6頭を確認したので報告する。幼虫の令数は定かではないが、大きさは10mm程度のもから15mm程度のもまでさまざまであった。食草のキジョランは、寒さのため葉は内側に筒状に巻きこんでおり、幼虫はその中に潜んでいるので、これによって幾分寒さから守られているようである。暖かい日には摂食しているのか、新しい食痕も確認できさ。

本種はこれまでのデータから、春には低地に現われ、季節が進むにしたがってだんだん高い山にすみかを広げ、秋にはまたふたたび低地で見られることがわかっている¹⁾。また、マーキングをして、種子島で5月31日に放された個体が、46日後の7月16日に福島県の白河市で再捕獲されたり²⁾、4月26日に同じく種子島で放された個体が、27日目の5月23日に三重県の鈴鹿山脈の入道ヶ岳のふもとで再捕獲されている²⁾。これらは夏には北へ移動するのではないかということを示唆する例であるが、反対に10月の20日に鹿児島県市木町で放された個体が、こんどはそれより400kmも南の奄美大島名瀬市で12日目の11月1日に再捕獲されている²⁾。これは、秋には南に移動するのではないかということ物を語っている。

このように、高地と低地を稀動する垂直移動と、北方と南方を移動する水平移動が推測できるわけであるが、もうひとつ、越冬をし、土着しているのはどのあたりになるかもはっきりしていないことの1つである。

県下において、冬に本種の幼虫が見つかったのは、この他に加美町金蔵山にて森下泰治氏によって、幼虫が3頭採集されているが、その他の記録は聞かない。しかし、県下でも寒さの厳しい内陸部で越冬幼虫が確認できたということは、食草が広く分布しておれば、広い範囲で土着できることが可能なわけである。今後さらに調査を進めていきたいので、県下に於ける採集記録など御教示いただければ幸甚である。越冬幼虫の調査に当っては、千種川グリーンライン昆虫館の南海孝一氏には何かと御教示を仰いだ。ここに記してお礼申し上げる。

〈参考文献〉

- 1) 日浦 勇(1983) アサギマダラの旅行
296: 7-11
- 2) 福田晴夫(1983) 蝶の長距離移動についての諸問題
やどりが(111/112): 4-5

Msami Hirohata 〒671-22 姫路市